

(様式1)

自己評価票

作成日 平成 26 年 9 月 17 日

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---------|----------------------------------|----------------|----------|
| 事業所番号 | 0870500410 | | |
| 法人名 | 医療法人社団 正信会 | | |
| 事業所名 | グループホーム ひまわり | ユニット名 | 東 |
| 所在地 | 〒 315 - 0023 茨城県石岡市東府中 1 - 10 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 26 年 9 月 1 日 | 評価結果 市町村受理日 | 平成 年 月 日 |

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

| | |
|------|--|
| 基本情報 | 茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。 |
|------|--|

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | | | |
|-------|--------------------------------------|-------|----------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人茨城県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内 | | |
| 訪問調査日 | 平成 年 月 日 | 評価確定日 | 平成 年 月 日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ユニット内のディスプレイをし、安らぎのある環境を作り、コミュニケーションを取りながらトランプを実施し、又、リハビリ体操に参加しながら過ごしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

| |
|--|
| |
|--|

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 |
|------------|------|---|---|
| | | | 実施状況 |
| I 理念に基づく運営 | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念を職員全員で考え、作成し各ユニットに提示し、支援に取り組めるよう再確認している。 |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 隣接する病院に時折散歩に出かけている また、隣接する病院とは入居者を受け入れる等、交流を図っている |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の高齢者や家族の方が気兼ねなく立ち寄れるよう、運営推進委員会議で民生委員や区長に呼びかけている |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進委員会議を2ヶ月に1回開催し、委員と情報交換しながら、意見や要望に耳を傾けている |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進委員会議の折、会議に出席し、事業所の実情や取組みを話し協力関係が得られるよう取り組んでいる |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 全職員が身体拘束の有無を確認したり、基本的に拘束をしないケアに努めている やむを得ない場合は、家族と話し合い同意を得ている。尚、その時に応じ、見直しを行い改善を図っている |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止法を学びミーティングや各ユニットで話し合い、各職員が意識を高め虐待防止に努めている |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 |
|------|------|--|---|
| | | | 実施状況 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 講習会等学ぶ機会もあり、入居時や契約の折、必要性のある場合成年後見制度についても、活用できるよう支援していきたい |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時の契約の際、納得の頂けるよう十分な説明を行い、理解が得られた時点で契約するよう図っている |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者やご家族が気兼ねなく意見や要望が表せるよう、玄関に意見箱を用意した、家族の面会時には、話す機会を作り意見をサービス向上につなげている |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ミーティングや日常において、職員同士、意見交換をしながら、職場に反映できるよう努めている |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員同士親睦を図りながら、働きやすい職場づくりにそれぞれが向上しようとして努めている |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 各職員は仕事に支障の無い限り研修会などに行き、知識や技術を身に付け質の向上に努めている |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | 研修会にできる限り出席し、他施設活動状況、問題点などを学び室の向上につなげるよう取り組んでいる |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 |
|----------------------|------|---|---|
| | | | 実施状況 |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用者の話を良く聞き、悩みや心配事に耳を傾け、信頼関係づくり努めている |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族とは入居時に十分な話し合いを持ち、不安や要望に耳を傾け、日頃から支援できるよう関係づくりに努めている |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居時の際、利用者家族と話し合い、会話のに、耳を傾け必要としている言に、できる限り対応に努めている |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日常生活で利用者と職員が共に過ごし、行事や余暇活動を一緒に楽しむことにより、良好な関係を築いている |
| 19 | | ○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族の面会時には、利用者の日頃の様子を、伝え共に支えていく関係を築いていけるよう努めている |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 利用者の知人や友人の来訪時には、気兼ねなく話しができるよう配慮し、今後も関係が途切れないよう支援に努めている |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者の話しを良く聞き、悩みや心配事に耳を傾け、利用者の状態に応じて共同作業や余暇活動を共に行うことにより孤立化を防ぎ、信頼関係づくりに努めている |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 |
|----------------------------|------|--|---|
| | | | 実施状況 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 利用者が退所した後も必要に応じ気軽に相談にのれるよう努めている |
| Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 利用者との関わりを持ち人間性を尊重し、思いや希望が表現できるよう努めている |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 日々の生活の中で利用者との関わりを持ち、これまで暮してきた生活歴を把握し、その人らしく生活が送れるよう支援していく |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日常生活において、利用者一人ひとりの動向や状態の変化を把握し無理なく過せるよう努める |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | カンファレンスを開き、利用者の思いや状態を話し合い結果をもとに介護計画を作成している |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 利用者一人ひとりの生活状況や体調の変化を記録し、情報を共有しながら、ケアプランやモニタリングに活かしている |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者や家族のその時々ニーズに柔軟な対応できるよう、取り組んでいる |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 |
|------|------|--|--|
| | | | 実施状況 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の各方面から、協力を仰ぎながら利用者が安全で楽しみながら、暮していけるよう支援している |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 月1回以上と訪問診療を行い、6ヶ月に一回健康診断を実施している。また、歯の治療の必要な利用者や希望する場合は家族の同意を得て歯科受診している |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問受診時医師や看護師に健康状態を相談し、適切に受診が受けられるよう支援している |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退院時には、協力医療機関の医師、看護師とは日頃から情報交換や相談ができる関係づくりを行っている |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 利用者の重度化した場合や終末期を迎えた時は、家族と対応方針について、話し合い、医療機関と連携を図りながら支援に取り組んでいる |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 利用者の急変や事故発生時に備え、マニュアルを各ユニットに掲げ日頃から実践できるよう努めている |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害に備えて年2回消防訓練を実施し昼夜問わず、利用者が避難できるよう、取り組んでいる。また、設備点検の折には消防への通報指導を受けている |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 |
|--------------------------|------|---|--|
| | | | 実施状況 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者の人格を尊重し、日頃からその人らしい日常生活が送れるよう配慮している |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日頃から話し相手になり、利用者の訴えたいこと、言葉で表現できない場合には、しぐさで把握しながら働きかけている |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日々の流れの中でその人らしい過ごし方を大切にし、その人の持っているペースに合わせて生活が送れるよう支援している |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 利用者の希望に添って衣類や身の回りの物を購入し、意思表示のできない利用者には、好みのコーディネートを考え、散髪は本人の言葉で表現できる方は希望にそってカットして頂いてる |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事時音楽を聴きながら職員と一緒に食事をしている。後片付けはできる範囲で職員と共に行っている |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一日の食事と水分量が確認できているか確認し、記録している。摂取の難しい利用者には、栄養補給をしたり、水分量が少ない方には、アルカリ飲料水等で摂れるよう支援している |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 入居者のペースに合わせて、口腔ケアを行い、毎日義歯洗浄剤を使用し清潔保持に努めている |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 |
|------|------|--|---|
| | | | 実施状況 |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 一人ひとりの排泄パターンをつかみ、声かけ、誘導し、できるところは見守りながら支援を行っている |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 一日の水分量の確保と軽い体操を行い便秘の予防に努めている |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 利用者の希望やタイミング、プライバシー、羞恥心に配慮しながら入浴できるよう支援している |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりが自分のリズムに合った、休憩ができるよう支援している |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者一人ひとりがどのような薬を飲んでいるか職員が把握・管理し服薬介助に努めている |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 余暇活動や屋外散歩に誘い、気分転換を図り、利用者一人ひとりの役割や楽しみごとを支援している |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 家族の協力を得て、外出したり、一人ひとりの体調にあわせ、屋外散歩に出かけられるよう支援している |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 |
|------|------|---|--|
| | | | 実施状況 |
| 50 | | <p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p> | <p>買物の依頼があれば、その人に応じて支援し、困難な場合には預かり金の中から購入し、使途や残高を家族に報告している</p> |
| 51 | | <p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p> | <p>その人に応じ設置している公衆電話を利用出来るよう支援し、依頼があれば手紙の投函も支援している</p> |
| 52 | 19 | <p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>利用者が居心地よく過ごしていけるよう、ホールや居室は適度な温度にし、他者とのコミュニケーションがとれる工夫をしている</p> |
| 53 | | <p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p> | <p>利用者が独りになりたい時には各居室個室になっている。ホールなどは自由に気軽に雑談して過ごせる居場所になるよう工夫している</p> |
| 54 | 20 | <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>居室には本人使い慣れた物お置きその人らしく過ごせる空間づくり工夫している</p> |
| 55 | | <p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p> | <p>廊下や通路には障害物を無くし、歩行や車椅子での通行を妨げないようにしている また、利用者の状態に合わせ、居室、トイレ、浴室など目印を貼り、自立した生活が送れるよう工夫している</p> |

| V アウトカム項目 | | |
|-----------|--|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25) | ○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38) | ○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38) | ○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37) | ○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49) | ○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31) | ○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28) | ○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19) | ○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19) | ○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4) | ○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない |
| 66 | 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12) | ○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | ○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 | ○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない |